

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.117

2021.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.117 目次

令和3年度総会報告(収支報告)・・・・・・・・・・・・・・・・	2
WRV・役員の再任および新任について・・・・・・・・	3
WRV監事就任挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	4
フクロウの保護と飼育～肉食性鳥の餌の工夫と飛行訓練～	5-7
令和3年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」	8-9
令和2年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告	10
野鳥の種内托卵	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

令和3年度総会報告(収支報告)

令和3年4月3日(土)に令和3年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、令和2年度収支報告・令和3年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告(特定非営利活動)

令和2年度収支報告書(令和2年1月1日から令和2年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	866,000	事業費	
事業収入	470,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	307,576
委託事業収入	8,216,844	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	5,920,185
寄付金収入	51,491	④野生動物の傷病予防に関する事業	0
預金利息	1,560	⑤生物多様性の保全に関する事業	0
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	17,632
収益事業収入	295,400	⑧収益事業原価	44,500
		管理費	2,992,822
		租税公課(消費税)	582,600
当期合計金額	9,901,295	当期合計金額	9,865,315
当期収支差額	35,980		
法人税等充当金	-70,000		
前期繰越収支差額	38,376,541		
次期繰越収支差額	38,342,521		

<令和2年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業(水鳥救護研修・情報整備事業等)
 - ・同請負事業及び一部リモート(オンライン)による研修の実施
 - ・日本獣医生命科学大学、帝京科学大学、東京環境工科専門学校等、特別実習の実施
 - ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集約、学会参加等
 - ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施(共催)
 - ・関係団体との事業協力および事業への参加(本部、各支部)
 - ・国際協力(JICA研修の実施 等)
 - ・野生動物リハビリテーター養成事業(神奈川支部)
 - ・各地の研究会、委員会、シンポジウム等への参画(リモートを含む) —その他
- ※令和2年度はコロナ禍のため定例の講習会等が中止となり、また関係団体等による諸事業も中止またはリモートによる開催となるケースが多く、活動が大きく制限されました。

令和3年度予算案(令和3年1月1日から令和3年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	870,000	事業費	
事業収入	520,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	310,000
委託事業収入	8,250,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	5,900,000
寄付金収入	60,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	10,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	100,000
収益事業収入	300,000	収益事業原価	40,000
		管理費	3,000,000
		租税公課(消費税)	600,000
当期合計金額	10,000,000	当期合計金額	10,000,000
前期繰越収支差額	38,342,521	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	38,342,521

WRV・役員の再任および新任について

本年4月に行われました令和3年度・WRV総会および理事会におきまして、正副会長を始めとする役員等の再任ならびに新任の承認がなされました。以下に、その名簿を掲載いたします。任期は2年となっておりますので、会員各位におかれましては、以後改めてよろしくお願い申し上げます。（それぞれ五十音順で記載）

会 長	新妻 勲夫（新妻動物病院 院長）
副会長	小松 泰史（新ゆりがおか動物病院 院長）
副会長	中津 賞（中津動物病院 院長）
理 事	大窪 武彦（おおくぼ動物病院 院長）
理 事	加藤 卓也（日本獣医生命科学大学 講師）
理 事	小山 正人（高坂どうぶつ病院 院長）
理 事	田向 健一（田園調布動物病院 院長）
理 事	中川 清志（中川動物病院 院長）
監 事	高橋 恒彦（新宿動物病院 院長）
監 事	町田 忠彦（町田家畜病院 顧問）

今回は新たに、高橋恒彦先生に監事としてご就任いただきました。つきましては、新任のご挨拶を頂戴致しましたので、次ページに掲載させていただきます。

なお、これまで長きに渡り監事としてご尽力賜りました倉林恵太郎先生には、5月よりWRVの顧問にご就任いただくこととなりましたので、今後ともご指導賜りたくお願い申し上げます。

WRVでは、内外とも厳しい状況下ではありますが、これからも野生動物救護医療の充実と発展を目指し、野生動物の保護・治療に携わっていただけるような獣医師の先生方、および動物病院のスタッフの方々のご協力を、広く求めていきたいと存じます。

会員各位および関係者におかれましては、引き続きWRVの諸活動にご協力いただけるような方をご紹介いただければ幸いに存じます。同時に、コロナ禍がまだまだ治まらない状況の中、どうぞご自愛いただければと存じます。

（WRV役員・事務局 一同）



WRV 監事就任挨拶

新宿動物病院 院長 高 橋 恒 彦

この度、ご縁があって本会の監事に就任いたしました。何分不慣れで、行き届かない点多々あるかと思いますが、宜しくお願い致します。コンクリートジャングルと言われる東京新宿で生まれ、野生動物とは程遠い環境で育ちました。その新宿でも私が子供の頃には、空き地や手入れのされていない公園も多く、小さいなりに自然がありました。当時は何故かカマキリやトカゲが大好きで、捕まえて飼育したり、近所の池で裂きイカを餌にして、タコ糸でアメリカザリガニを釣ったりして過ごしていました。かといって特段に探求するわけでもなく、飽きやすい性質から、関心は十姉妹やセキセイインコといった鳥類に移り、やがてハムスターやハツカネズミ、そして犬猫の哺乳類へと対象が変化していきました。不思議なもので、昔はミミズやバッタを平気でつかんでいましたが、今では何故かザワザワ（ほかの表現が見当たりません）してしまい、触る事が恐怖となり、つくづく子供の好奇心のなせる業なのか、との思いです。

そんな私も獣医師となり、東京都獣医師会の野生動物対策委員会（当時）に就任、小笠原動物医療派遣団の第 1～3 次団長を務めさせて頂いた事が、野生動物との関わりの始まりと認識しております。思い起こせば当時、右も左も分からない正に暗中模索の中での派遣でした。白いキャンバスに初めて筆を入れるが如く、段取りを含め全てを決め、そして実行する、良し悪しを含めて多くを学ぶ事が出来ました。一例として、動物病院で普段何気なく利用しているあの診察台ですが、事務用テーブルで何とかなるだろう、との思いで代用したところ、全くもって使い辛く、あのサイズ感はとても重要なのだと認識しました。急遽改造したりしてその場をしのぎましたが、翌年からは関係者のご厚意で、木製の重厚で立派な手作り診察台を作製頂き、感謝した次第です。予算不足や人手不足など、出来ない事の理由は幾らでもあり、言い訳にする事は簡単です。しかし、多くの制約の中で実施し、より多くの成果に繋げ発展させるには、更なる多くの創意工夫が必要で、関係者が一丸となった時に達成される事が実感され、有意義でありました。

環境保全や野生動物対策は、多くの場合、問題が深刻化して対応が後手となってしまう感があり、結果として解決には多くの予算そして人材が必要となります。先手を打つためには短期的、そして中長期的な展望、それに伴う実施計画など多岐にわたる対応が必要で、そこで重要なのが環境政策です。環境政策をみれば、その国の凡その民度が判ると言われるように、これが一つの尺度の様に感じます。環境行政につきましては、関係諸機関の皆様には、まさに多くの制約の中で最大限のご尽力を頂いていると思います。そして理想の実現に向けて、更なる創意工夫が必要と思われまます。

今後も国の内外で、想定外な出来事が発生することが予想されます。いかなる時も柔軟かつ臨機応変に、行政や他関連諸団体との連携を図り、野生動物救護活動の一助になれば幸いです。

フクロウの保護と飼育～肉食性鳥の餌の工夫と飛行訓練～

WRV副会長／中津動物病院 院長 中 津 賞

2020年4月20日、当院にフクロウの幼鳥が持ち込まれました。顔面に2ヶ所小さくて、浅い傷がありますが、すぐに治りそうです。そのほかは至って元気そうで、よく餌を食べます。フクロウは通常、まだ十分に飛べない産毛の多い状態で巣を離れ、しばらく近くの木の枝に止まって、親の養育を受けます。それゆえに巣立ち直後の誤認救護が多い鳥種です。この個体は、奈良県北葛城郡の神社の森で発見されました。巣の近くにまだ兄弟がいる可能性がありますので、そっと見守っていただけるとありがたいと思いました。そこで、野生動物リハビリーターの方々が数日間、保護場所の近くで同腹の幼い兄弟がいないか捜索してくれましたが、親鳥の鳴き声もなく、結局他のひなも見つかりませんでした。巣立ち直後の若鳥は、フクロウに限らず、必死に羽ばたいて飛行しているのを見るとついつい助けてやりたくなりますが、今は親鳥から給餌を受けながら、どう餌を採り、どう雨をしのぎ、生きながらえていくかを習う、いわゆる社会化の過程において大切な時期で、本来は親鳥と一緒に生活していくことが必要です。見かけてもそのまま放置して置くことが大切です。これは「善意ある無視」とも呼ばれています。



搬入されたフクロウ（4月20日）

今回のような救護個体の肉食の鳥には、鶏肉は与えてはいけません。鶏は、マレック病というヘルペスウイルス科のウイルス病の病原体を持っている可能性があるからです。当院では、豚肉、退院サポート缶詰、ネオネイト粉末、エレンタール粉末、Emeraid 社肉食鳥用粉末食、冷凍ピンクマウスを与えています。

状態を見て、動いているマウスを捕食できるように訓練できたなら、救護場所近くで放鳥することを予定しました。

なお近年、フクロウ類、タカ類の飼育者が徐々に増加しています。特に、海外で繁殖した日本の固有種でない種類が多数輸入されています。最も危惧されることは、飼い主が飼育に飽きた時に野外に放鳥してしまうことです。またタカの訓練中に呼び戻しが効かなくて逃走する例も耳にすることがあります。こうして外来移入の猛禽類が野生化してしまうと、生態系に大変な悪影響を及ぼしてしまう可能性があるのです、何より注意が必要です。

店頭で販売時に指示される餌は、マウス、ラット、ウズラ、ヒヨコのみです。もっぱら冷凍のものが使い勝手が良く、よく利用されています。ただこれらの給餌はあまりにも慣習化、あるいは単純化していて、それが原因となり栄養障害がよく起こります。そこで餌の多様性を図るために、当院では市販の猫の総合栄養食を粉末にして、これら冷凍餌にまぶして与えるように指導しています。



Emeraid 社・肉食鳥用粉末食

●今回のフクロウへの給餌内容

1. 巣立ち直後の雛鳥：豚肉に退院サポート缶(ロイヤルカナン)、Emeraid IC Carnivore をまぶして口内に押し込むか、食欲を示す時は眼前で揺らして誘引した。
2. 羽ばたき始めた2ヶ月令頃の若鳥：冷凍ピンクマウス、豚肉、BPDs、Emeraid Intensive Care Carnivore。
3. 成長に合わせて次第に餌のサイズを大きくした。冷凍アダルトマウスMサイズ、冷凍コオロギ、豚肉、退院サポート缶、BPDs。6ヶ月令では冷凍アダルトマウスLサイズ、冷凍コオロギ、牛肉、退院サポート缶、BPDs。

一方、日本獣医生命科学大学の野生動物学教室で、このフクロウの種同定のためのPCR検査を受けました。これは最近、外来種が多種類持ち込まれていることによる交雑種の出現を恐れているためです。検査の結果、本個体は在来種のフクロウのメスと同定されました。フクロウは九州以北に留鳥として分布しており、平地の森林等に生息し、特に神社や寺の大きな木のある場所に好んで住むとされています。

次に、環境に慣れてきた2週目から、個体の野生復帰に向けた訓練を開始しました。

まずは、手袋をはめた手に乗ることに慣らせるようにしました(写真1)。

また、収容ケージ前に止まり木を設置しました。そこには滑らないように縄を巻いてあり、手袋の上から止まり木に乗り移る訓練をしました(写真2)。

フクロウは自分からは、なかなか行動に移らない鳥で、餌で釣っても、頭をぐるぐる回転させて、ただ距離を測定している時間が長くなります。その際、まず飛び出すことはありません。



写真1 手袋に乗る訓練



写真2 止まり木に止まる訓練



写真3 診察室内での様子

十分に飛行できる3ヶ月令くらいになった時には、診察室内で自由に遊ばせるようにしました。ある時、床に置いたフリースに飛びかかって爪で掴んだり、洗濯バサミに同様に飛びかかったりして、自ら獲物を狩る行動をするようになってきました。そこで爪で掴むたびに肉片を与えるようにして、この行動を誘発しました。これは短い飛行訓練には大変向いていたようです。

続いて狭い縦長の廊下でのいわゆるコリドール・フライトの訓練のために、約5mの長さがある当院の待合室に2台の止まり木を置いて、その間を飛ばす事を始めました。しかし、フクロウは飛び立つまでにかなり時間がかかるため、止まり木台を急に下げるようにして飛び立たせると、効率良く飛行訓練ができました(写真4,5)。



写真4, 5 :

2台の止まり木間を飛行させることを繰り返す。フクロウは積極的に飛行しないので、短時間に効率よく飛行させる工夫として、止まっている台を前方に押し出しながら、振り下ろすと飛び事がわかった。こうすることで、短時間で効率よく羽ばたき運動をさせられた。



写真6, 7, 8 :

換羽前後の外観の変化を観察するために、換羽前(推定5ヶ月齢)の写真(左2枚)と換羽後(推定7ヶ月齢)の写真(右)を並べた。換羽前は幼鳥の羽毛で、比較的小さな顔盤を持つが、換羽後の成長が進んだ段階では大きな顔盤となり、聴覚の発達が伺える。また羽毛の色も黒っぽく、線も太くなっている。

フクロウの幼鳥は、その後すっかり成長して産毛も抜け、成鳥と見間違えるほどに羽毛が生えそろいました。通常8月中には親元を離れて自分のテリトリーを持つ鳥なので、発見地の奈良県・白姫山神社での放鳥を考えていました。しかし、これまでに行ってきたフクロウの放鳥後の様子を知るための発信器をつけた数回に渡る追跡調査では、全ての症例で、翌朝あるいは2、3日のうちに何者かによって捕食され、羽毛が散乱した状態とともに、現場で発信器が発見されました。今回はこの悲劇をなんとか避けるために、フクロウの飼育・繁殖を研究している施設を探したところ、東京都内の井の頭自然文化園で受け入れてくれることになりました。奈良県野生動物対策課と大阪府野生動物愛護グループの方々に、法律に基づく飼養許可や移送に関する手続きをご指導いただき、全て順調に解決しました。そこで、もう少し涼しくなる秋頃に搬入することとしました。

井の頭自然文化園への移送は10月3日に行われました。その当時の給餌内容については、Lサイズ冷凍マウスを1日1頭、朝に自然解凍してから昼に与え、市販のスライスした豚または牛肉を30グラム、夜8時に与えるようにしていました。そこで搬送時には、食べ慣れている3頭の冷凍マウスを持参しました。

井の頭自然文化園には、昼に到着するように大阪を立ちました。そして到着時の観察では、朝に給餌したマウス1頭を吐き戻していたようですが、その他には外見等に異常は見られませんでした。今回運搬に使用したケージの寸法は、縦40cm、横53cm、幅31cmです。犬用の輸送ケースで、折りたためるタイプのものでした。

同園から送っていただいたメールによると、搬入したフクロウは、自主検疫で異常がなかったことから、10月26日にバックヤードの飼育施設へ移動され、環境に慣らすようにしていました。

そして展示用として既に同園にいたオスもバックヤードに移動され、2021年1月8日からは同個体と金網越しにお見合いを始める運びとなりました。さらに3月6日からは、当園のオスとの同居飼育が開始されました。現在（5月初旬）まで、ケージ内に荒れた様子はなく、2羽は互いに攻撃することもなく平穏に生活を始めたようです。メールによると、2羽とも大変元気な様子とのことでした（写真9）。



写真9：井の頭自然文化園のケージ内の様子。
左側が送られたメス。

このフクロウに関する余談：先日、自然と子供をテーマにして創作活動が続ける株式会社「野鳥生活」の田川之彦氏が、当院で現在収容されている野鳥を見学に来られました。以前から(NPO 法人)野鳥の病院の活動にご理解をいただいております、チョウゲンボウ等の図柄のTシャツの販売利益を当院にご寄付いただいております。今回は放鳥間近になっているフクロウの若鳥の図柄のTシャツを制作、販売していただけることになりました。また同柄のiPhone ケースもSUZURIにて販売していただけます。



https://suzuri.jp/Yachoo_Seikatsu をご覧ください

◆令和3年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」◆

WRV事務局長 箕輪 多津男

WRVでは、(公財)日本鳥類保護連盟及び(公財)日本野鳥の会との共催により、今や恒例となりました「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を引き続き実施致しております。

令和3年度のキャンペーンに関して、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、それぞれ以下の通りとなっております。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただいておりますが、今回も関係各位より多大なるご協力を賜わり、誠にありがとうございます。改めて厚く御礼申し上げます。

<ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト> (43団体：五十音順)

公益社団法人 愛知県獣医師会	公益社団法人 秋田県獣医師会
公益社団法人 石川県獣医師会	一般社団法人 茨城県獣医師会
一般社団法人 岩手県獣医師会	公益社団法人 大阪市獣医師会
公益社団法人 大阪府獣医師会	公益社団法人 岡山県獣医師会
公益社団法人 北九州市獣医師会	公益社団法人 岐阜県獣医師会
公益社団法人 京都市獣医師会	公益社団法人 京都府獣医師会
株式会社 共立商会	公益社団法人 神戸市獣医師会
公益社団法人 滋賀県獣医師会	公益社団法人 静岡県獣医師会
NPO 法人 自然環境アカデミー	全国愛鳥教育研究会
高尾霊園犬猫墓地	東京環境工科専門学校
公益社団法人 東京都獣医師会	公益財団法人 動物臨床医学研究所
中津動物病院	一般社団法人 長野県獣医師会
公益社団法人 名古屋市獣医師会	公益社団法人 奈良県獣医師会
公益社団法人 新潟県獣医師会	新妻動物病院
公益社団法人 日本獣医師会	公益社団法人 日本動物病院協会
馬場動物病院	一般社団法人 兵庫県獣医師会
文永堂出版 株式会社	公益社団法人 北海道獣医師会
公益社団法人 三重県獣医師会	一般社団法人 宮崎県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク	ムナテックス 株式会社
森久保薬品 株式会社	野生動物リハビリテーター協会
公益社団法人 山口県獣医師会	公益社団法人 横浜市獣医師会
公益社団法人 和歌山県獣医師会	

会員の皆様には、前号のニュースレターとともに本年度のポスターを同封させていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、今後ともその普及啓発のため、お力添えいただければ幸いに存じます。

昨年来のコロナ禍のもと、人の命の大切さを、これまでになく意識されておられる方も多いことと存じますが、同様に野生生物の命についても大切にしていかなければなりません。

あらゆる野生生物と私たちヒトとの共生の実現、そして将来に向け、生物多様性と掛けがえのない生態系の存続を確かなものにしていくことが、私たちの大きな目標です。

WRVではそうした目標の実現に向け、様々な問題解決への取り組みを、これからも展開していきたいと考えております。また、傷病野生鳥獣の救護活動についても、一層尽力してまいりますので、皆様のご支援とご協力を、改めてよろしくお願い申し上げます。



見つけても
そのままに

近くには
親鳥がいるから
だいじょうぶ。



ヒナを 拾わないで

ひろ

みまもって、野鳥の子そだて



メジロのヒナ



シジュウカラのヒナ



スズメのヒナ

ヒナを見つけ、放っておけないと
判断された場合は、各都道府県の
鳥獣保護担当部署にご連絡ください。

ちゅうりゅう けい こ さん とう ぶ しよ



窓口の連絡先
一覧はこちらへ

私たちも応援しています！

(株) アシスト わんわん倶楽部 アトム (株) (株) アベックス 学研グループ 株木建設 (株) (株) キングジム
 サントリーホールディングス (株) (宗) 真如苑 東亜建設工業 (株) (株) ニコンイメージングジャパン (株) フジナガ
 (株) ベッツインバシ 丸和油脂 (株) 三菱製紙 (株) 光村印刷 (株) 森ビル (株) 横浜ゴム (株) リコーリース (株) リズム (株)
 (株) アイフ徽章 (株) 共立商会 千葉県 栃木県 長崎県 (株) 日本フードエコロジーセンター ムナテックス (株) (株) メール ハゲ岳倶楽部
 (公社) 愛知県獣医師会 (公社) 秋田県獣医師会 アルスコンサルタンツ (株) (公社) 石川県獣医師会 (公社) 茨城県獣医師会 (一社) 岩手県獣医師会 (公社) 大阪県獣医師会
 (公社) 大阪府獣医師会 (株) オオバ (公社) 岡山県獣医師会 カローラータ (株) (公社) 北九州市獣医師会 (公社) 岐阜県獣医師会 (公社) 京都市獣医師会 (公社) 京都府獣医師会
 京都野鳥の会 (公社) 神戸市獣医師会 寿精版印刷 (株) (公社) 滋賀県獣医師会 (公社) 静岡県獣医師会 NPO法人自然環境アカデミー 神宮司庁 全国愛鳥教育研究会
 高尾雲園犬猫基地 土浦大師不動尊 大型寺 東京環境工科専門学校 (福) 東京コロニー (公社) 東京都獣医師会 (公財) 動物臨床医学研究所 鳥取県 富山県鳥獣保護センター
 中津動物病院 長野県 (一社) 長野県獣医師会 (公社) 名古屋市獣医師会 奈良県 (公社) 奈良県獣医師会 (公社) 新潟県獣医師会 新農動物病院 日本印刷 (株)
 (公社) 日本獣医師会 (公社) 日本動物病院協会 日本野鳥の会茨城県 馬場動物病院 ビジョン (株) (一社) 兵庫県獣医師会 文永堂出版 (株) (公財) ホシザキグリーン財団
 (公社) 北海道獣医師会 ホテル龍名館東京 (公社) 三重県獣医師会 富崎県 (一社) 富崎県獣医師会 読蔵村山ペットメモリアルパーク 森久保薬品 (株) モリトジャパン (株)
 (株) モンベル 野生動物リハビリーター協会 山口県 (公社) 山口県獣医師会 (公社) 横浜市獣医師会 (公財) 横浜市緑の協会 和歌山県 (公社) 和歌山県獣医師会

共催：(公財)日本鳥類保護連盟 ☎03-5378-5691 (公財)日本野鳥の会 ☎03-5436-2622
 NPO 法人野生動物救護獣医師協会 ☎042-529-1279

後援：環境省




イラスト：高生 恵なまび デザイン：三石 秀明 2021 年

※既に配布させていただきましたポスターにつきましては、当方の手違い等によりまして、「(株)共立商会」様の表示が誤っておりました。ここに改めて紙面をもちまして深くお詫び申し上げます。上記が正しい表示となります。

令和 2 年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告

WRV 事務局 齊 藤 量 子

平成 12 年度から毎年開催している油等汚染事故対策水鳥救護研修(環境省)ですが、昨年度(令和2年度)も現場救護リーダー向けの研修を 2 回、行政担当者向けの研修を 1 回開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて、参加者の人数を例年の半数にするなどして対応しつつ、現場救護リーダー向けの第 1 回を令和 2 年 10 月 29 日・30 日に、第 2 回を 11 月 19 日・20 日に、例年通り環境省水鳥救護研修センターにおいて開催しました。また、集合形式での研修開催が難しいと判断された行政担当者向けの第 3 回については、令和 3 年 3 月 16 日にオンラインにて開催しました。

研修では、各分野の専門知識を持った講師による、油の性質や油等汚染事故の基礎知識、水鳥専用リハビリプールの組み立て、情報体制の整備、具体的な対応体制づくり、水鳥の生態、油汚染鳥の救護・治療・リハビリ等の実体験を交えた講義がそれぞれ行われ、参加者の方々は、どの講義にも積極的に聞き入っている様子でした。

初の試みだった第 3 回研修のオンライン開催については、配信の通信環境や操作等に課題が残りましたが、今まで遠方のため来場が難しかった方や、日程の調整が難しいといった方々にも多くご参加いただきました。オンラインでの開催は実習を受けられないといったデメリットもありますが、今後の研修にも取り入れていくことで、より多くの方々に、油等流出事故の対応時に、共通認識として求められる知識と技術を習得していただくいい機会になるのではないかと考えています。

一方、現地研修につきましては、誠に残念ながら昨年度は開催を見送ることとなりました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの研修や交流会を行えなかったことが悔やまれますが、オンラインでの開催など、新たな方法を取り入れたことで、研修開催方法についての視野が広がりました。今回の経験を、今後活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、研修開催にあたり、御協力をいただきました(一財)海上災害防止センター、(公財)日本野鳥の会等、関係者の皆さま方に心から御礼申し上げます。



現場救護リーダー向け研修風景



洗浄実習風景

野鳥の種内托卵

ご存じの通り、日本国内で見られる托卵を行う野鳥の代表と言えば、ツツドリやホトトギス、ジュウイチ等も含めたカッコウの仲間ということになります。それぞれが他の鳥種の巣に、一つの卵を巧みに産みこみ、その後の子育ては、すべてその巣の親鳥にうまくやらせてしまうといった繁殖戦略となりますが、野鳥の中には同じ種の間で托卵が起こることもあり、これを「種内托卵」と呼びます。



世界最大の鳥とも言えるダチョウも種内托卵を行う代表格ですが、彼らの托卵はオープンな感じで、ハーレムの中でリーダー的な一羽がいの巣に、他のメスが次々に卵を足していくといった具合で、通常 20 個程度の卵が巣に並ぶことになります。これはどの個体にとっても予定調和の繁殖行動と言えます。

一方、私たちの身近な野鳥の中で、最も頻繁に種内托卵を行うのがムクドリです。ただしダチョウと違い、こちらの托卵はカッコウと同様に、他のつがいの巣に一度に 1～2 個の卵を巧みに、時に強引に産み込むという形になります。その際、産みこまれた営巣中の親鳥は、托された卵を排除せず、そのまま他の卵と一緒に抱卵するため、無事に孵化すれば巣立ちまで成長できることとなりますが、托卵数が多くなるとヒナ同士の餌の奪い合い等、競争が激しくなり、時に生き残りをかけた争いになります。ムクドリの種内托卵については、生息密度の上昇や営巣場所の不足等が大きな要因の一つとなっているようですが、都市部やその近郊で大群をなしてねぐらをとる彼らの姿を見ていると、それも頷けるというものです。

種内托卵を行う野鳥は、世界的に見ると特にカモの仲間によく見られ、その原因としては、開放巣とも呼ばれる通り、開けた場所に大まかな巣をつくる性質により、托卵しやすいことが挙げられるでしょう。同様に、カイツブリの仲間も種内托卵が見られる種の割合が高い傾向にあります。

なお種内托卵は、スズメやツバメといった私たちにとって最も身近な野鳥にも見られることがあり、そこに改めて野鳥の社会の複雑さを垣間見ることができます。野鳥を始めとする野生動物の生態に関する奥深さと同時に、尽きることのない面白さを感じるのには恐らく私だけではないでしょう。

今に至るまで、気の遠くなるような長い歴史を重ねてきた野鳥の世界の醍醐味に、これからも思いを寄せていきたいものです。

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略）（令和 3 年 3 月 1 日から令和 3 年 5 月 31 日）

○寄付金(一般) 2021.4.1 町田和子 20,000 円 2021.4.14 アミ動物病院(安田剛士) 64,185 円

事務局日誌 2021.3.16～2021.6.18

=== 3 月 ===

16：第3回油等汚染事故対策水鳥救護研修（オンライン開催）

対応：皆川、箕輪、齊藤

- 19：立憲民主党獣医師・獣医療・「ワンヘルス」政策議員連盟設立総会（衆議院第2議員会館） 出席：小松
- 24：神奈川県鳥獣総合対策協議会（オンライン開催）[神奈川支部] 対応：皆川
- 25：WRV ニュースレターNo.116 発行 対応：小松、箕輪、齊藤
- 31：令和2年度「水鳥救護研修・情報整備業務」報告書 提出（環境省） 対応：齊藤
- ==== 4月 ====
- 01：令和3年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」スタート 対応：箕輪
- 03：令和2年度WRV総会（立川事務所） 対応：新妻、小松、大窪、町田、小森、箕輪、齊藤
- 03：令和2年度WRV東京都支部総会（立川事務所） 対応：新妻、小松、大窪、倉林、小森、箕輪
- 08：超党派愛玩動物を対象とした動物看護師の国家資格化を目指す議員連盟（衆議院第1議員会館） 出席：小松
- 23：練馬区西青色申告会 第1回指導委員会（リモート開催） 対応：新妻、町田
- 24：(NPO)丹沢自然保護協会 植樹 [神奈川支部] 対応：皆川
- 27~28：剥製の作成（帝京科学大学大学院生） 対応：齊藤
- ==== 5月 ====
- 07：帝京科学大学アニマルサイエンス学科1年アニマルサイエンストピックス講義（千住キャンパス） 講師：皆川
- 11：令和2年度南多摩獣医師会定時総会（オンライン開催） 対応：小松、大窪、須田
- 13,14,27,28：東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習（東京環境工科専門学校）[神奈川支部] 対応：皆川
- 15,22,29：東京環境工科専門学校生・インターンシップ（犬猫・野生動物救護センター）[神奈川支部] 対応：皆川
- 16：第75回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」（オンライン開催） 対応：箕輪
- 19：練馬区西青色申告会 第4回代議員総会（リモート開催） 対応：新妻、町田
- 25：日本獣医師連盟四役会議（日本獣医師会役員会議室） 出席：小松
- 27：練馬区西青色申告会 第2回理事会（リモート開催） 対応：新妻、町田
- ==== 6月 ====
- 05：令和3年度第2回獣医疫学会役員会（Web会議） 対応：加藤
- 05：第77回日本野生動物医学会理事会（Web会議） 対応：羽山、加藤
- 06：東京環境工科専門学校生・インターンシップ（犬猫・野生動物救護センター）[神奈川支部] 対応：皆川
- 09：柴崎幹男都議会議員・都政を語る会（ホテルカデンツア） 出席：新妻
- 13：(公社)東京都獣医師会第10回定時総会（オンライン開催） 対応：中川、高橋、新妻
- 17：WRV 理事更新等申請手続き相談（村重石原合同司法書士事務所） 対応：箕輪

.....

野生動物救護獣医師協会 (ホムページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 117 2021.6.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：小松 泰史 編集担当：箕輪 多津男

.....